

2019年度

時間50分 100点満点

第一回 特待・アドバンスト入試

国語

受験上の注意

1. 試験開始の合図があるまで、この問題冊子を開いてはいけません。
2. 実施時間は50分で、100点満点です。時間配分に注意して解答してください。
3. 解答は解答用紙にていねいに記入してください。
4. 解答用紙・問題用紙両方に、受験番号、座席番号、名前を記入してください。座席番号は、机に貼ってある番号のことです。
5. 試験中は携帯電話の電源を必ず切ってください。
6. 私語や物の貸し借りなどは認めていません。困ったことがある場合は、手をあげて先生に相談しその指示に従ってください。

受験番号 _____ 座席番号 _____

名 前 _____

聖学院中学校

問題は次のページからはじまります

一 次の――部のカタカナを漢字に直しなさい。

- ① 予約をコトワる。
- ② 手紙をトドける。
- ③ 風で髪がミダれる。
- ④ しんせんな空気をスう。
- ⑤ ウれて黒くなつたバナナ。
- ⑥ 自分のシュチヨウを通す。
- ⑦ 食糧をチヨゾウしておく。
- ⑧ 人口がゲンシヨウしていく。
- ⑨ 世界的なキボの戦争が起こる。
- ⑩ 地震発生のカクリツが高くなつている。

〔二〕《魂》^{たましい}を持つボンネットバスは、広島福山にある「能宗館長」^{のうそう}の博物館で修理されて甦^{よみがえ}りました。そして今、「高井専務」や「高橋部長」のいる会社に引き取られることになり、皆はボンネットバスに乗り込んで新潟県の湯沢に向かっています。次の文章を読み、後の間に答えなさい。(、や。なども一字とします)

三日目もまた、突き抜ける^ぬようないい天気だった。

北陸自動車道に乗って最初に停^とまったのは、米山サービスエリアだった。たまたま観光バスとなりに停車^{ていじや}したこともあって、ボクの周囲にはすぐに人だかりができた。

今日は金曜日——観光バスに乗っていたのは、ほとんどがリタイア後の老人たちだった。

高井専務と高橋部長は、「このなつかしいバスが湯沢にくるんですよ」といいながら観光パンフをせつせと配^くっている。よく笑って、よく働く、いいコンビだ。

老人たちのなかに、ひとりだけ車椅子^{いす}のおばあさんがいた。介護^{かいご}の女性につきそわれていて、ぽつぽつと会話を交わしてはいたけれど、でも、魂を半分抜かれているみたいなの、どこかぼんやりとした感じの表情をしていた。目に、生きる気力がほとんど宿^すっていないのだ。

ボクには、その気持ち^{こころ}が痛いほどわかった。自分の思いどおりに動けない人生——おばあさんはまさに、ボクとおなじ未来を歩もうとしているのだから。

わかるよ、わかる。

ボクは、おばあさんを見つめながら、共感と、同情の気持ちを向けていた。

ところが、そんなボクの鬱々とした感傷を、まるごと吹き飛ばすような発言をした人がいたのだ。能宗館長だった。

「おばあちゃん、ラッキーな人じゃのう！」

いきなり車椅子の前にしゃがみ込んで、能宗館長はおばあさんのしわしわの手をにぎった。

「昔はよう乗とったじゃろ、こんなバスに。わしがいま乗せちやるけ、当時んこと、思い出して楽しんでください」

おばあさんは、突然のことに（A）を丸くしていたし、介護の女性も不安そうな顔をしていたけれど、「心配いらんて。のう、おばあちゃん、乗りたいじゃろ？」と能宗館長は笑いかけた。

その笑顔につられてか、おばあさんの無気力だった顔に、ふっと明るい笑みが咲いたみたいだった。

「おお、それなら私もお手伝いしますよ」

そばにいた高井専務は、パンフレットの束を高橋部長にどさつとわたして、おばあさんのとなりに立った。

そして、能宗館長と高井専務に支えられるようにして、おばあさんは車椅子から立ち上がって、ボクのステップへと足をかけたのだった。

一段一段、交互に足を出して、のぼっていく。

ついさつきまで車椅子に座っていたとは思えないほど、その脚には力強さがあつた。

三人の重みを感じられるボクにはわかっていた——おばあさんはこのとき、ほとんど自力で立っていたのだ。しかも、座席に座ったとたん、背筋をしゃんと伸ばして持ち手にしっかりとつかまり、ボクのなかをとでもなつかしそうな顔できよろきよろと眺めまわしたのだった。

「ほんなら、おばあちゃん。ちよつとのあいだひとりにしちやるけん、じつくりと思ひ出にひたってください」

能宗館長と高井専務は、外に出た。

介護の女性は、おばあさんの表情の変貌ぶりに（B）（ゆげん） 啞然とした顔をしていた。

「母が、あんなにうれしそうな顔をしたのも、自発的になにかをしようとしたのも、本当に久しぶりのことです。どうもありがとうございます」

そういつて、丁寧ていねいに頭をさげた。

能宗館長は、うんうん、とうなずいた。

そして、おだやかに諭さとすような口調でこういった。

「こういうバスにはのう、人を笑顔にしたり元気にしたりするエネルギーが宿ってますけん。そういう大切な価値に気づかないまま、ただ古いモノだからうちゅう理由で物置にしまい込んだり、捨ててしまったりするのはもったいないじやろう。ほら、あのおばあちゃんの顔を見てみなさい」

娘さんは、窓の外から、おばあさんのしわしわだけどキラキラした笑顔を見つめた。

「ホント、幸せそうですね……」

つぶやいて、微笑み、そつと鼻の下に指をあてた。両目に、たつぷりの涙がたまっていた。

大切な価値に、気づかないまま――。

能宗館長のセリフが、ボクのなかにも突き刺さっていた。①そして、それが刺激になって、ふたつのヘッドライトからウロコがぼろりぼろりと落ちた気がした。

運転手をどんどん替えながら、ボクは関越自動車道に入った。ゴールの湯沢町まであと少し。

そのまましばらく走って小出インターで高速を降りた。緑の山のなかをうねりながら延びる国道十七号線をゆつくりと走る。道路に沿って滔々と流れる清流は、まるで水面下に無数の宝石を抱え込んでいるのではないかと思わせるほど、午後の陽射しをキラリ、キラリ、とまぶしく照り返していた。

もう、ボクの大好きな海からはうんと遠ざかってしまったけれど、かわりに清々しい山の空気が味わえる。福山からはもっと離れてしまったけれど、新たに湯沢を楽しめばいいさ。

そう。ボクはついさっき、気づいてしまったのだ。

モノとして幸福に生きていく方法を。

たしかにボクは自由に『動く』ことはできないけれど、自由に『思う』ことも『感じる』こともできる。それは唯一（C）の現実であって、だれのせいでもない。

だったら――。

その現実をまるごと受け入れて、その先に見つけられる大切な価値に“気づき”ながら生きていけばいい。日常にある小さな幸せにひとつでも多く“気づき”ながら日々の幸福をかみしめていけばいいのだ。そして、それだけが、ボクがモノとして幸福に生きるための、たったひとつの術すべなのだと思った。

たとえば、いま、ボクのなかで、えびす顔の高井専務がこんなことをいった。

「館長さん、さつきはいいものを見させてもらいました。②私わたしも、あの精神でもって、このバスを大切に走らせます」

ボクは、こういう素敵な人たちにもらわれるという幸運に“気づいて”その幸せを堪能たんのうすればいいのではないか。そして、それが常にできてさえいれば、ボクはずっと『幸福なモノ』でいられるに違いない。

「ありがとうございます、専務。バスは走らせてなんぼじゃけ、どんどん乗ってやってください。で、もしもこのバスがこわれたら、これはうちの責任ですけ。いつでも博物館でしっかりと元通りに直しますけん、安心してください」

これからボクは湯沢という高原の町で元気に走らせてもらえる。しかも、万一こわれてしまっても、大好きな福山のみんなに逢あいにいける！

やっぱりボクは、幸福なバスだ。

いや、そもそも、だれかに愛されて幸福だったからこそ、《魂》が生じたのだった。

そう、ボクはみんなに愛されている。

生きていることそのものが、その証拠じゃないか。

「みなさん、長旅、本当にお疲れさまでした。いよいよゴールの湯沢町役場に到着します」

両手をメガホンみたいににして、高橋部長が車内アナウンスをした。このキャラバンを企画し、案内役をつとめてくれた人だけに、なんだかとてもホツとしたような顔をしている。

すぐに湯沢町役場が見えてきた。

真夏の陽光がふりそそぐ町役場の駐^{ちゅうしゃじょう}車場。

そこには——手作りのくす玉が用意されていた。

ほらね。愛されている。

そう、ボクはいま、世界のどのバスよりも幸せに生きている。

凜^{りん}。

（森沢明夫『海を抱いたビー玉』甦ったボンネットバスと少年たちの物語』）

問一 ……部 (A) (C) について次の問いに答えなさい。

問 A (A) に入る体の部位を漢字で答えなさい。

問 B ……部 (B) 「嘩然としていた」の意味を左のように説明しました。() に入る体の部位を答えなさい。

() を開けて驚いている状態。

問 C (C) は「この世でただ一つしかない」という四字熟語の一部です。ここに入る漢字二字を答えなさい。

問二 「おばあさん」が変化する様子を次のように説明しました。() に入る漢字三字を抜き出しなさい。

おばあさんはボンネットバスとの出会いによって、(D) な状態から (E) に何かを試みようとする状態へ変化した。

問三 ——部①について、「ウロコがぼろりぼろりと落ちた」は何を表していますか。ふさわしくないものを選びなさい。

ア、自分の価値に気づかないまま捨てられそうになった過去を思い出して泣いている、ということ。

イ、おばあさんのキラキラした笑顔を見て泣いている娘に同情してもらい泣きをしている、ということ。

ウ、素敵すてきな人にもられた現実を受け入れて生きてゆけばよいと急に理解できるようになった、ということ。

エ、自由に動くことはできないが、モノとして幸福に生きていく方法を急に理解できるようになった、ということ。

問四 ——部②「あの精神」を次のように説明しました。()に入る二十五字以内のことばを抜き出しなさい。

古いモノには()いる、という精神。

問五 本文のようにボンネットバスは甦よみがえりました。ここに至るまではボンネットバスのどのような過去が描かれていたのでしょうか。本文を参考にして、ボンネットバスの過去を簡潔かんけつに二つの文で創作しなさい。

三 次の文章は「すみません」と「ごめんなさい」とを説明した文章で、それぞれの文章の後に間があります。次の文章を読み、後の間に答えなさい。(、や。なども一字とします)

すみません

「済まない」の「済む」とは、一体どういうことなのでしょう？

これは、「お祭が済む」とか、「会議が済む」などと言う、つまり、物事が終わって、落ち着くことです。だから「済みません」は「終わりません」ということになります。

でも、その「済む」とは、何が「済む」のか？ 何が「終わる」、と言うのでしょうか？

簡単に言えば、これは、「気」が「済む」のです。あれこれ、「気」を回して、「気」を働かせる…。それが「終わる」のです。

つまり、お店で人を呼ぶ「済みません」は、「お店に入っついて、いきなり人を呼んだりするのは、とても不躰で、そんなことをするのは私の気が済まないのですが…」という気持ちを表していたのです。

前触れも無くいきなりお店に入りこんだりして、申し訳ない…。お店の人は何か別の仕事で忙しくて、今声を掛けたら、その邪魔じゃまをすることになるかも知れない…。そんな相手の迷惑めいわくになるかも知れないことをしたら申し訳ない…。

それなのに声を掛けたりするなんて、私の「気」が「済まない」のだけれど、あえてお声をお掛けします…。

だから、「済みません！」

日本人は、お店の人に声を掛けるのにも、相手のことを思いやって、あれやこれや気を回し、気を遣うのです。

なんと、相手への思いやり、気遣いに満ちた言い方なのでしょう！　こういう表現で、日本人は相手を大切に扱っている、ということを表現したのです。

「済みません」は、お店で人を呼ぶときだけではありません。人に何かお願いをするときにも、人にお礼を言うときにも、そして人に謝るときにも使います。

「済みません。道をお尋ねしたいのですが…」。

「済みません！　こんなにしていたいで…」。

「あんなことを言ってしまったって、ほんとうに済みません…」。

どれも、「それだけでは、私の「気」が「済みません」、もっともっと、私のあなたに対する「気持」はたくさんあって、この程度では、終わらないのですが…」という気持を表わしているのですね。

問一 「すみません」ということばには日本人のどのような意識がありますか。十一字で抜き出しなさい。

問二 筆者が述べていることから、「すみませんでした」という表現はふさわしくないことになります。その理由を書い

た次の文の（ ）に入るふさわしいことばを十字以内で答えなさい。

「すみませんでした」という表現は、物事を終わった過去のこととして扱い、今は気持ち（ ）から。

ごめんなさい

①「ごめんなさい」と「ごめんください」とは、どうつながるのでしょうか？

まず「ごめん」とは、何なのか？

しからば、ごめん

ごめんなすって

ごめんあそばせ

なんだか時代がかってきましたが、昔はずいぶん「ごめん」という言葉を使っていたようです。

そう言えば、江戸時代には「斬り捨てごめん」という言葉がありました。これは、当時は、身分が上とされた武士に對して無礼をはたらいた庶民を、その場で斬り捨ててもよい、ということがありました、それを言った言葉です。人を斬り捨てておいて、「ゴメン！」と謝ったわけではありません。

「斬り捨て御免」。つまりこれは、無礼者を斬り捨てることが公に認められている、ということと言ったのです。

「御免」とは、「免」ということに、敬語の「御」が付けたもの。「免」とは、「免許」、「免状」、「免罪」という言葉があるように、許されること、認められること、を言います。それに「御」が付くと、偉い人、あるいは尊重すべき「あなた」の「お許し」、という意味になります。つまり、「斬り捨て御免」とは、無礼者を斬り捨てることが、天下公

認である、ということと言った言葉だったのです。

その「御免」が、「ごめんなさい」の「ごめん」…。

「なさい」は、「する」という意味の敬語、「なさる」の命令形。つまり、「ごめんなさい」とは、「お許しなさい」ということだったのです。

「ごめんください」の方は、「御免下さい」。つまり、「お許し下さい」。これは、人の家を訪ねたり、お店に入るのを、「お許し下さい」と言っ、訪問の挨拶にしたのですね。

ですから、「ごめんなさい」も「ごめんください」も、相手の「お許し」を求める言葉だったのです。人に迷惑をかけたり、人の邪魔じやまになるようなことをしたときに、今度は、その許しを乞うことで、申し訳ないというお詫びの気持を表わしたのが、「御免」、「御免なさい」、「御免下さい」だったのです。

しからば、ごめん——これは、武士の別れの挨拶ですね。なぜ、「御免」なのか？ それは、今まで会って場を共有していた、その場から去って行くことで、その、相手との共有の場を壊してしまうことへの「お許し」、「御免」を求めたのです。それはちやうど、訪問のときの挨拶、「御免下さい」と状況は反対です。しかし、「御免下さい」も、もともと相手の静かな日常生活を、訪問によって邪魔することになりますから、やはり、その「お許し」をいただく必要があったのです。その「お許し」をいただいて初めて二人の場が作られるのです。別れるときは、その反対になります。今度はそうして出来ていた二人の場を崩すことになるわけですから、これも相手の「お許し」がいることになります。

人を尋ねるときにも「御免」、その場から立ち去るときにも「御免」…。

日本人には、目には見えないけれども、身の回りに「場」があるのですね。その「場」をどう尊重し、どうそこに入りし、お互いの「場」をどうオーバーラップさせていくか？これが日本語の、つまり日本人の人付き合いの要点になります。

社長室に入るときも、「失礼します」。報告が済んで、今度は出るときも、「失礼します」…。これを知らないと、「失礼」！つまり、「礼」儀を「失」うことになるのです。

「ごめんなすつて——これは、渡世人わたせいにんの言葉ですね。もう少し言葉を補えば、「ごめんなすつて、おくんなせえ」。丁寧ていねいに言えば、「御免なされて、おくれなさい」。これも、相手の前を横切ったり、別れて立ち去ったり、失礼に当たることをするときに、やはり相手の「お許し」を乞こう言葉でした。

「ごめんあそばせ——これは、上品な婦人の言葉。やはり、同じように許しを求めた言葉です。「あそばせ」は、「遊ばせ」。「遊ばす」というのは、最上級の敬語でした。「お遊びになる」。

陛下へいかが、御覧遊ばす／お聞き遊ばす

「遊ぶ」と言うことが、なぜ敬語になるのか？

それは、「遊ぶ」ということが、心ゆくまで自分のしたいことを自分のしたいようにすることだからです。「御覧遊ばす」というのは、心ゆくまで見ること。「お聞き遊ばす」というのは、心ゆくまで聞くこと。それは、身分の高い人にし

*渡世人：ばくち打ちなどのこと

か許されることではありませんでした。ですから、「遊ばす」と言えば、それが敬語になったのです。

(上野英二『暮らしの日本語辞典』)

問三 — 印①について、「ごめんなさい」と「ごめんください」はどのようなことばですか。十四字でぬき出しなさい。

問四 ある場所に「入るとき」と「出るとき」、どちらでも「失礼します」と言う理由をそれぞれ二十五字程度で説明しなさい。

問五 おソバ屋さんで注文とは違ったものが運ばれてきてそれを指摘しました。すると、店の人は「ごめんなさい」と言いました。この店員の受け答えに「どこか変!?’と感ずるのではないでしょうか」と筆者は述べ、「すみません! すぐにお取り替え致します。」と云ってほしいものです」とつづります。このことに関して、次の問に答えなさい。

問A 筆者がこのように言う理由として最もふさわしいものを答えなさい。

ア、「ごめんなさい」は、許されることを前提にしており、自分の非を認めることばではないから。

イ、「ごめんなさい」は、注文を間違えた立場にもかかわらず、命令形を使って「上から目線」だから。

ウ、「すみません」と言うことで、間違えたことは早く終わらせて、取り換えることを優先すべきだから。

エ、「すみません」と言うことで、まずは不快な思いをさせた相手に許してもらうことが先決であるから。

問B

「すみません」や「ごめんなさい」よりも先に自分の非を認める表現が必要なのでしょうか。あなたならこの二つの表現の他にどのようなことばで自分の非を認めますか。

